

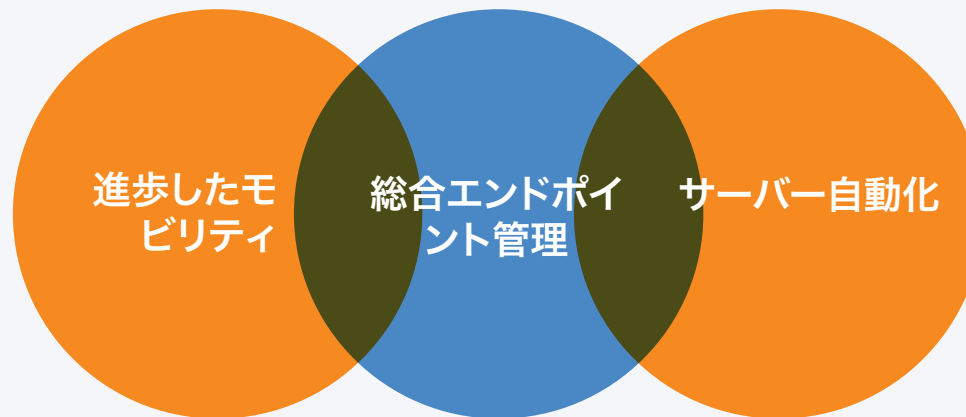


一緒だともっといい

Appleデバイスをエコシステムで管理しよう

今の時代、仕事にデバイスを1つしか使用していないという人を見つけるのは困難でしょう。携帯、タブレット、コンピューターを使ってユーザーは、未だかつてないほどにどこでも生産性を上げることができます。多くの組織は、このようなデバイスを正しく設定して企業のリソースにアクセスしたり、セキュリティとコンプライアンスが確保できるようなデバイスの管理を選択しています。ここで疑問となるのは、お使いの環境にあるさまざまなプラットフォームをどうやって管理するかということです。

一部の組織ではモバイルデバイスを購入、管理するためのチーム(例えば、Telecomチーム)とコンピューターを購入、管理するチーム(ITチーム)を分けており、同じ組織内で複数の管理ツールを使用することになっています。しかし、Microsoft、Google、Appleのすべてにおいて、デスクトップおよびモバイル両方のプラットフォームで一貫性のある体験が可能です。これにより、マルチ管理ツールモデルが相互接続プラットフォームというビジョンとぶつかり、すべてのデバイスを管理ツール1つで管理できるという「総合エンドポイント管理」(UEM)が生まれました。これはすばらしいのですが、Microsoft、Apple、Googleに共通するものは?という論点を巧みに避けることとなります。



デスクトップオペレーティングシステム - Windows、macOS、Chrome OS - には、ほとんど共通点がないのが現実です。デバイスのプロビジョニング、暗号化、展開、保護、更新、サポートにそれぞれ独自のワークフローがあります。iOS、Windows Mobile、Androidなどのモバイルプラットフォームにも同じ「独自性」が当てはまります。これが、UEMが対応できないところです。すべてをサポートするよう設計された管理ツールは存在しないのです。

ですから、組織は次の選択を迫られます。

- ✓ プラットフォーム(つまり、デスクトップまたはモバイル)ごとにデバイスを管理するか
- ✓ 総合ツールでデバイスを管理しようとする、または
- ✓ エコシステム(Apple、Microsoft、Google)ごとにデバイスを管理する

みなさんとITスタッフに迫られる選択について分析したこのEブックをダウンロードし、みなさんとユーザーへの影響について理解しましょう。

1

エコシステムというレンズを通した管理アプローチ

デバイス管理モデルの定義

まず、さまざまなデバイス管理モデルとそれらがどういう意味を持つか検証することから始めましょう。

デバイスの種類ごとにデバイスを管理するか、すべて総合ツールで管理しようとするかに限らず、みなさんはほとんど共通性のないものをサポートすることを強いられています。さまざまな種類のデバイスに共通性が不足していること、それぞれの更新サイクルが異なり頻繁であることは、デバイス管理にフリーサイズのアプローチがないことを意味します。総合管理ツールはあらゆる種類のデバイスやプラットフォームをサポートするように設計されているわけではないのが現実で、組織は「芸のない」ツールセットを持て余すことがよくあります。

オプション 1: 種類ごとのデバイス管理

デバイスの種類	Apple	Microsoft	Google	管理
✖ コンピューター	macOS	Windows	Chrome OS	クライアント管理
モバイル	iOS	Windows Mobile	Android	EMM/MDMツール
TV	tvOS	—	Chrome OS	EMM/MDMツール

オプション 2: 単一ツールでのデバイス管理

デバイスの種類	Apple	Microsoft	Google	管理
コンピューター	macOS	Windows	Chrome OS	UEM
モバイル	iOS	Windows Mobile	Android	
TV	tvOS	—	Chrome OS	

管理するデバイスに注目するのではなく、管理するエコシステム(つまり、プラットフォームまたはブランド)に注目したらどうでしょうか。エコシステムごとに縦に整理すると、共通性が見られるようになります。

WindowsとWindows Mobileには共通性があります。MicrosoftはIntuneとSCCMによるファーストパーティ管理ツールを提供しています。Chrome OSとAndroidは近づきつつあります。G SuiteというGoogleのネイティブ管理ツールで両者とも管理できます。Appleは、あらゆる種類のデバイスでIT/ユーザー体験を統合していることで知られています。このため、エコシステムごとにデバイスを管理する価値を最もよく表す例としてここで取り上げます。

Appleのオペレーティングシステムは集中型で、独自のエコシステムの一部として設計されています。iOSとmacOSは共通の管理フレームワークを共有し、それはtvOSまで拡張されています。これらのデバイスをJamfなどの専用管理ツールで一括管理することで、Appleのエコシステムを最大限に活用できます。

オプション 3: エコシステムごとのデバイス管理



Option 3	Apple	Microsoft	Google
デスクトップ	macOS	Windows	Chrome OS
モバイル	iOS	Windows Mobile	Android
TV	tvOS	—	Chrome OS
管理ツール	Jamf	Intune/SCCM	G Suite管理

ITの効率アップ

デバイスの種類ごとや総合ツールにより管理するのではなくエコシステムでデバイスを管理すると、機能的なメリットを損なわずにすべての管理タスクを最適化できます。Apple、Microsoft、Googleのさまざまなエコシステムワークフローを見てみましょう。

	Apple		Microsoft		Google	
	mac OS	iOS	Windows	Windows 10 Mobile	Chrome	Android
プロビジョニング	Device Enrollment Program		Azure ADによるダイナミックプロビジョニング		G Suiteへの手動登録	Device Enrollment Programのようなものはなし
暗号化	FileVault	パスワードで有効化	BitLocker		クラウドストレージによる暗号化	最新デバイスではビルトイン暗号化、初期設定ではオフ
管理フレームワーク	Apple Push Notification ServiceによるMDM		Windows Push Notification ServiceによるSCCM + MDM	Windows Push Notification ServiceによるMDM	Chrome Management	Googleプッシュ通知によるMDM
設定管理	構成プロファイル		グループポリシーオブジェクト	構成ポリシー	Chromeポリシー	Android (旧Android for Work)
ソフトウェアライセンス	Volume Purchase Program		Windows Store for Business		Chrome Web Store	Google Play Volume Purchase (米国&カナダのみ)

ご覧のとおりこれらのエコシステムワークフローの違いにより、デバイスのプロビジョニング、設定の適用、ソフトウェアの展開をそれぞれ違ったやり方で行う必要がでてきます。共通ワークフローがないこと自体、総合エンドポイント管理が複数のエコシステムを管理する理想とはならないことを示しています。

しかしエコシステムごとの管理をとる場合、ITチームの効率的な管理とセキュリティ対策、ユーザーの快適な体験という両世界でベストを実現できます。では、Appleのエコシステムがどのようにそのオペレーティングシステム - macOS、iOS、tvOSを通じて管理を共有している見てみましょう。

2

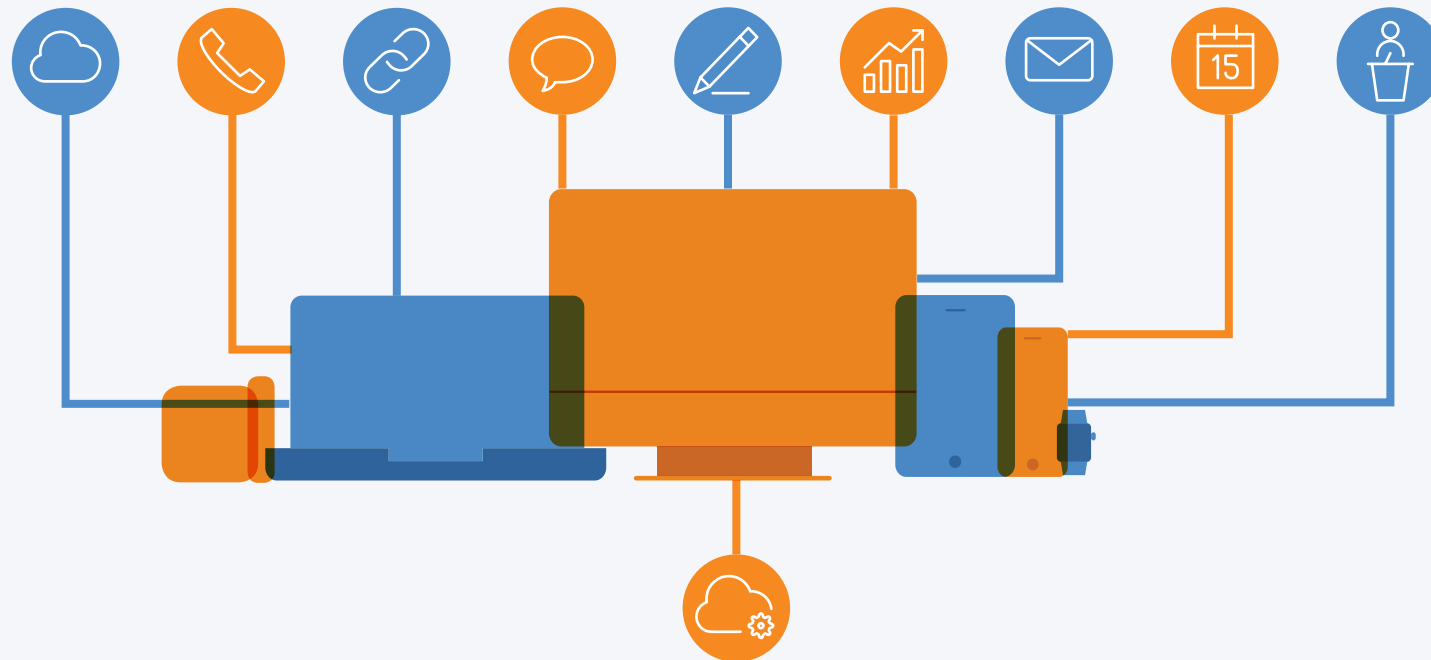
Appleエコシステムをはじめに

なぜ最初にAppleか: 体験の相互接続

Appleは相互接続エコシステムを構築し続けています。実際、デスクトップとモバイルを組み合わせる体験の一番良い例です。Appleは、エコシステム全体で一貫したユーザー体験を提供しています。iMessage、FaceTime、他のContinuity機能をすべてのAppleデバイスで使えます。例えば、ユーザーはApple WatchからMacのロック解除を行ったり、Macでプレゼンテーションを作成してiPadで編集を続け、さらにApple TVでワイヤレスでプレゼンテーションを共有できます。Siriなどのバーチャルパーソナルアシスタントの強化機能により、Appleエコシステムは音声コマンドでさらに相互接続が進むことが期待されます。

Appleエコシステムの「シームレスさ」はすばらしいユーザー体験を生み出し、ITにエンタープライズ設定を届けています。Appleにはエンタープライズプログラムがあり、展開を合理化し、ユーザーに優れた「OOBE」（「箱から出したばかり」の状態）で提供される）体験をもたらしています。AppleのDevice Enrollment Program (DEP) と Volume Purchase Program (VPP)をモバイルデバイス管理(MDM)と組み合わせることで、Mac、iPad、iPhone、Apple TV デバイスを一貫して管理できます。これらの管理機能はAppleエコシステム独自のもので、管理ツールで正しくサポートしなければいけません。

エンドユーザー向けAppleエコシステム



IT向けAppleエコシステム

Appleエコシステム管理フレームワーク

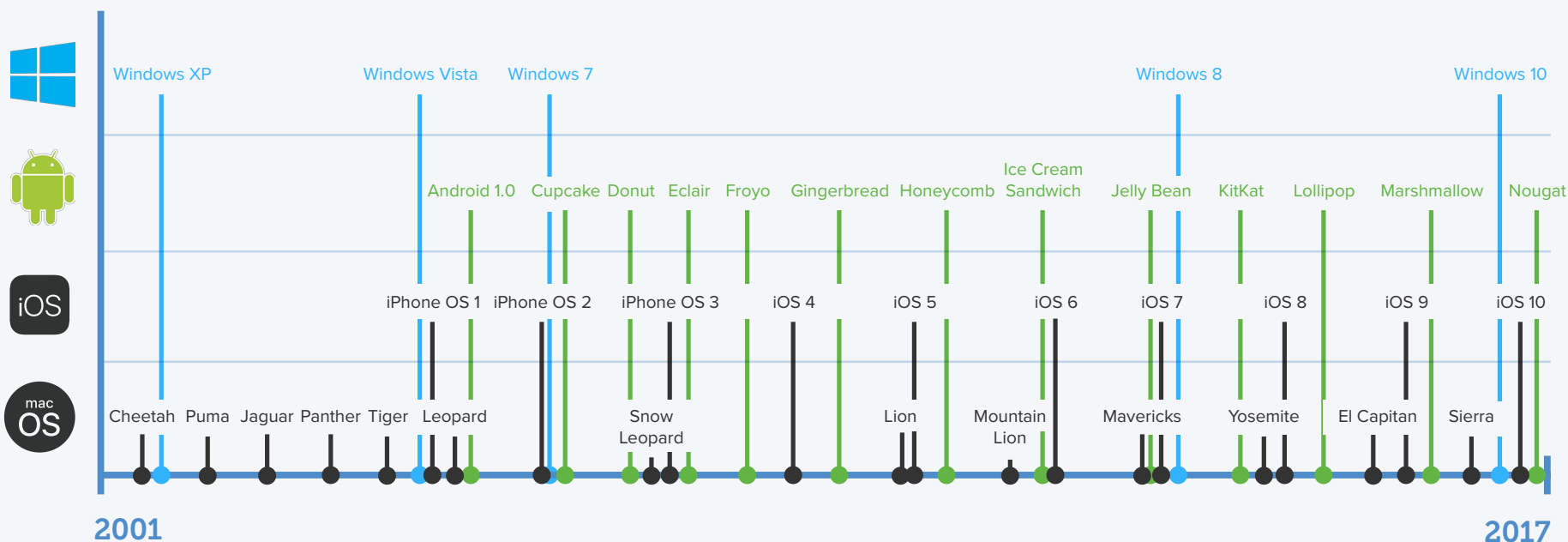
MDMとは、ITがMac、iOS、Apple TVデバイスの構成、保護、管理をできるようにするAppleのビルトイン管理フレームワークです。MDMでは構成プロファイルに基づいて、ITは簡単かつ一貫してAppleデバイスをユーザーに構築および展開できます。構成プロファイルは、オン/オフにすべき設定やどのように動作してほしいかをデバイスに指示するものです。

一部のプロファイルはすべてのデバイスに共通で設定できます。つまり、Wi-FiまたはEメールを1つ構成すると、ユーザーのAppleデバイスすべてに展開できるということです。セキュリティ設定や制限もまたプロファイルごとに適用され、カメラをオフにしたり、パスコードを施行したり、暗号化をオンにし、iCloudに制限をかけ、特定のアプリをブロックしたりできます。このようなプロファイルにより、複数のデバイスに一貫したデバイス設定とセキュリティを実現します。

休まない更新に遅れをとらない

ユーザーにシームレスな体験を届けるプロセスは休みなく続くもので、デバイスへの新しい機能と性能のサポートを続けることがその1つになります。Appleには他の技術提供者と同じく、オペレーティングシステムの定期的なアップグレードサイクルがあります。ですから、セキュリティおよび機能面の両方においてユーザーが最新リリースにアップグレードできることが重要になります。

新リリースごとにmacOS、iOS、tvOS間の統合がさらに進んでおり、Appleユーザーは最新機能にすばやくアップグレードしています。なぜでしょう？アップグレードがシンプルであり、ユーザーは最新機能を利用したいと考えているためです。実際、最新Androidオペレーティングシステムを使用しているのは7%であるのに対し、iOS 10を使用しているのはiPhoneおよびiPadユーザーの86%に上ります。ただし、AppleとMicrosoftのアップグレードは別々に配信されるため、別途管理しなければなりません。



新しいオペレーティングシステムと機能はユーザー体験を強化する一方、すべてのAppleデバイスが完全にサポートされていないのは初めてユーザーは最新かつ最大の恩恵を受けられます。UEMモデルを購読する場合、これは販売会社が複数かつさまざまなメンテナンスサイクルをサポートできるかどうかにかかっています。グラフに従ってUEMプロバイダーには満たすべく期待がたくさんあり、一番共通性が低いものに対応することを選択する(またはリソースや時間の制約により強いられる)ことがよくあります。その結果、最新プラットフォーム更新のサポートが月、四半期単位で遅れることがよくあり、最悪の場合、決してサポートされないことがあります。

UEMソフトウェアが随時最新プラットフォームの更新を適用できないと、ユーザー体験が乏しくなるだけでなく、これらのツールを使用している組織がセキュリティ上の脆弱性にさらされ、ワークフローが途切れることとなります。ユーザーの生産性をキープしながら組織のセキュリティ対策を維持するためには、それぞれのプラットフォームに特有のエコシステムの更新をただちにサポートできる専用ソリューションを使用することが最善の策となります。これは決して贅沢なことではなく、デバイスをしっかりと安全に管理するために最低限求められることです。



ひとつ屋根の下のAppleハードウェア購入

Device Enrollment Program (DEP)というAppleの集中型ハードウェア購入ポータルでは、ゼロタッチな展開が可能です。ITがデバイスを事前構成すると、ユーザーはただ新しいデバイスを開封し電源を入れ、セットアップアシスタントプロセスを行うだけです。デバイスは自動で管理登録され、使用できるようになります。Apple専用の展開および登録プロセスは、macOS、iOS、tvOSで利用できます。Appleエコシステム全体に専用のツールで管理するとプロセスはシンプルになり、macOS、iOS、tvOSデバイスをさまざまなツールで管理した場合に複数のワークフローを重複して行わなければならないのが避けられます。

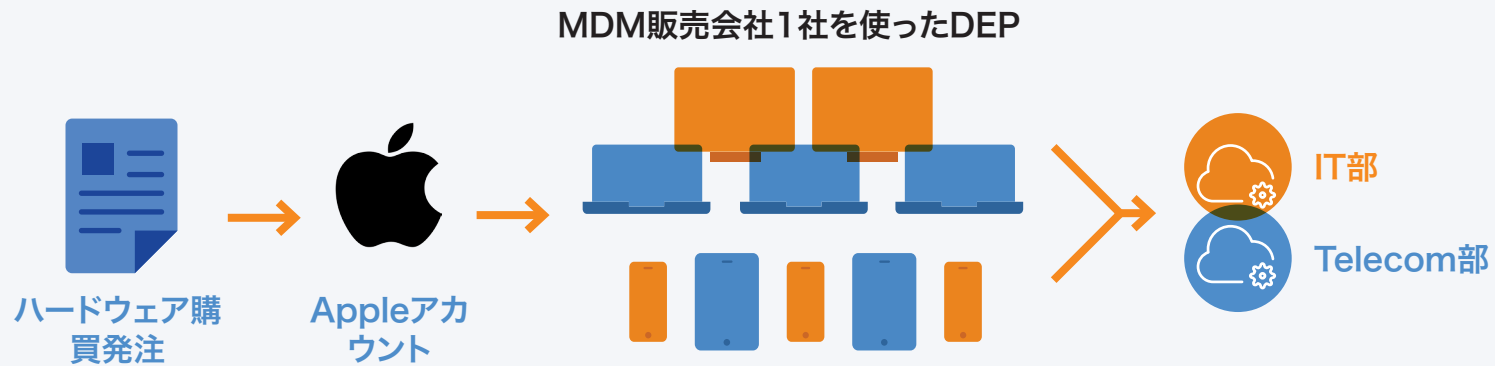
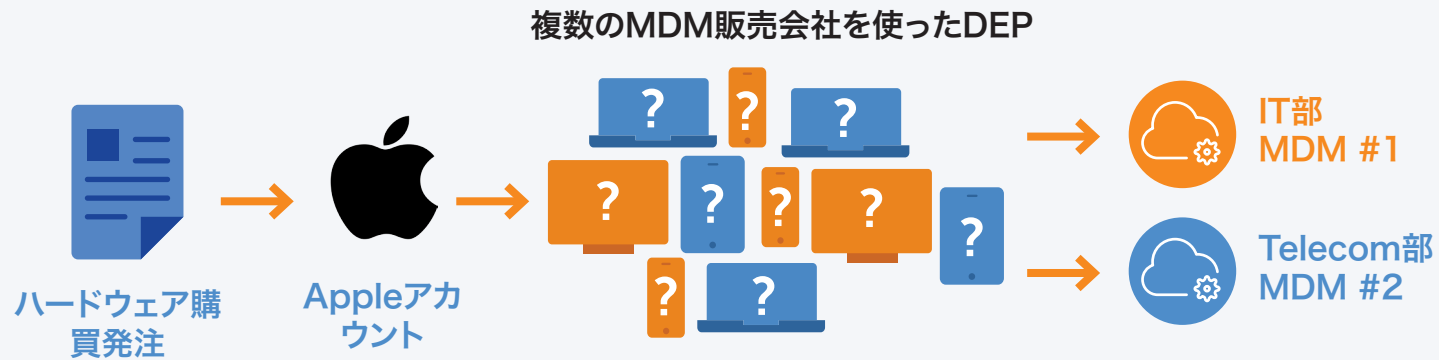
組織がさまざまなAppleデバイスを管理するのに別々のツールを使用するなら、すべてがすぐにぐちゃぐちゃになってしまいます。DEPは複数のMDMサーバーをサポートできますが、IT管理者はDEPポータルで手動で注文を分けて、対応するMDMサーバーにMacやiOSデバイスを割り当てなければなりません。DEPポータルには購入デバイスの一覧が表示されないため、ITはデバイスの割り当てのためにDEPポータルに(長ったらしい)シリアルナンバーまたは注文番号を入力しなければなりません。つまらない、間違いを起こしがちな作業です。デバイスをユーザーに届ける前にDEPポータルでMDMへの割り当てが完了していないと、デバイスは正しく設定されません。

単一のエコシステム専用MDMソリューションにDEPアカウントをリンクすると、組織はMac、iPad、iPhone、Apple TVデバイスについて別々のアカウント番号で別々に注文する必要がなくなります。これで、ITの管理体験は自動化されたようなものです。

DEPとは? どうして開発された?

長年の間、展開の標準はイメージングでした。ただし、モバイルデバイスはイメージングに向けて作られたものではありません。Appleはモバイルを手始めに、モジュール構造の展開アプローチ - Device Enrollment Program を生み出しました。

iOSをきっかけに、macOSはイメージングから離れていっています。新しいMacにプレインストールされているメーカーインストール版のmacOSにはすでにアドウェアやアドオンソフトウェアが存在しなくなり、IT管理者がMDMでプレインストールされたOS上にシンプルに構築できるようになっています。



Apple TVの最新機能とは？

Apple TVは現在、DEPおよびお使いのMDMで自動展開および構成できます。tvOSをどちらで管理しようか考えているなら、Apple管理がすべて1つのソリューションの下にある限り、実際はどちらでも関係ありません。

ひとつ屋根の下のAppleソフトウェアライセンスとアプリ購入

Appleを市場の他の会社から引き離しているのは、アプリのエコシステムです。アプリはユーザーの生産性を上げる中心となるものです。Appleには素晴らしいApp Storeがあります。ただし、App Storeからアプリをダウンロードするには従来Apple IDが必要でした。これは、Volume Purchase Program (VPP) で変わりました。

VPPはアプリを一括購入および管理する合理的なプログラムで、App Storeアプリを配信する唯一の方法です。単一のエコシステム管理ソリューションを活用することで、これらのアプリの展開と管理が合理的になります。さらに、購入、割当、配信をすべてひとつのエコシステム管理ソリューションにリンクすることで、複雑でなくなりデータ損失の可能性が減ります。

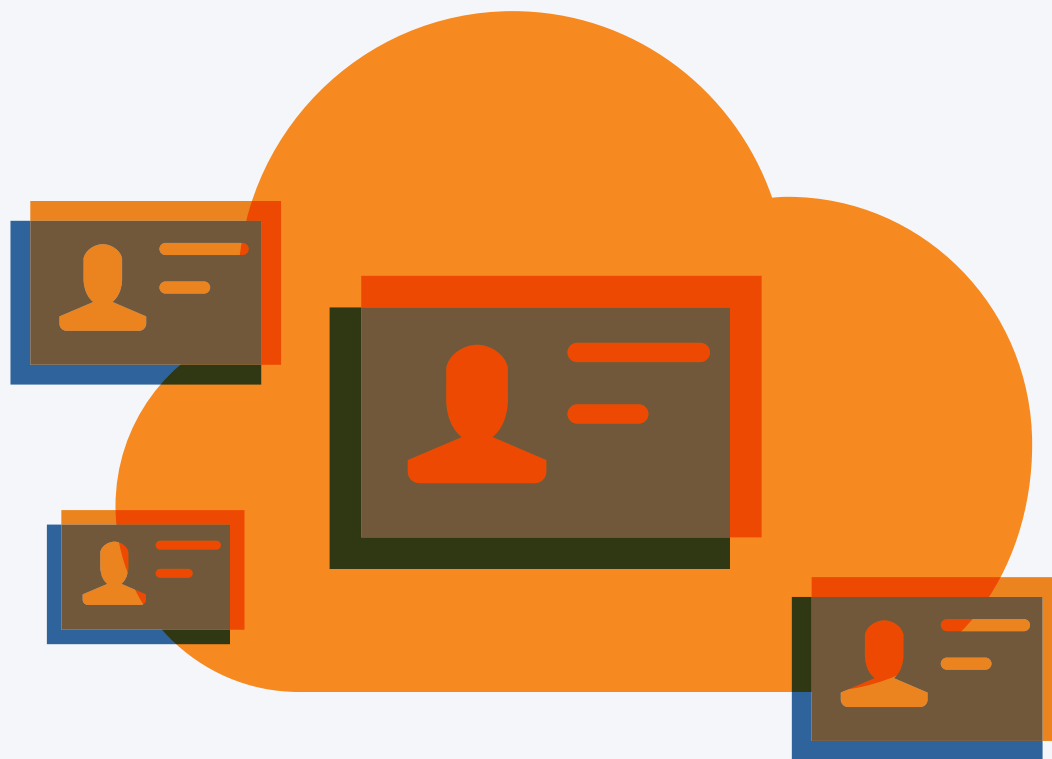
単一のApple管理ソリューションでVPPを使用したほうがよいのは、どうしてですか？

- 購入** ITはデバイス/オペレーティングシステムに限らず、1か所からまとめてAppleアプリを購入します。
- 割当** VPPアカウントにより、アプリの割当は簡単になります。あらゆる購入できるものが複数のVPPアカウントでなく中央の1か所にリンクされるためです。デバイスごとの割り当てには、Apple IDは必要ありません。
- 配信** 単一のMDMにすべてのVPPアプリが一覧表示され、ユーザーにすぐに展開できます。
- 更新** VPPトークンは毎年更新する必要があります。IT管理者がVPPトークンを間違えて他のMDMソリューションにアップロードすると、以前配信されたアプリを事故的に消去してしまうリスクがあります。VPPトークンを1つのMDMサーバーに保管することで、このリスクが減ります。

Apple IDはどうですか？

アプリはiCloudを使って、モバイル、デスクトップ、Apple TVオペレーティングシステムを同期できます。これにより、ユーザーは携帯でアプリを利用し、コンピューターでやりかけたところから作業をはじめられます。

ユーザーのApple IDにより、このアプリのハンドオフと同期が実現します。情報セキュリティチームがiCloudを承認する場合、ユーザーはApple IDを使ってデバイスベース割当てでアプリを展開できます。



ひとつ屋根の下のAppleユーザーリソース

ユーザーは使用するデバイスに限らずシームレスな技術、サポートおよびサービス体験を求めています。この期待はデバイスが手元に届いてからも止むものではありません。消費者のAppleエコシステム体験を拡大する方法はたくさんあります。ひとつは管理アプリです。

管理アプリはITがアセットをキュレートし、ユーザーはアプリ、プリンター、トラブルシューティングショートカットやドキュメンテーションなどのリソースやサービスを簡単に取得できるようになります。アプリに読み込まれるものはITが承認したものとなり、チケットを送らずとも社員は直接アプリを開いて必要なアイテムをただちにダウンロードできます。これで、あなたとユーザー両方の時間が節約されます。

Appleデバイスを別々の管理ソリューションにセグメント化すると、エンドユーザーがMacやiOS向けのアプリとインタラクトすることをユーザーに強いることになり、どのデバイスをどこに持っていけばいいのか混乱を招くことになります。1つのソリューションでエコシステム管理を合理化すると、アプリはすべてのAppleプラットフォーム共通となります。ユーザーはmacOSとiOSの両方において、ひとつのブランド、名前、外観、操作感を提供するポータルで一貫した体験を味わうことができます。

インストールまたは提出できるもの:

✔ App Storeのアプリ

✔ VPN構成

✔ プリンターマッピング、ドライバー

✔ Eメール構成

✔ シングルサインオン(SSO)統一

✔ パスワードリセット

✔ E-ブック、ガイド、ビデオ(動画)

✔ サードパーティソフトウェア

✔ ソフトウェアやOSのアップグレード

✔ 社内アプリ

✔ 基本メンテナンス

✔ ハードウェアリクエスト

3

エコシステムの交差点

一括管理としてのレポートングツール

お使いの環境に包括的な視点が必要であることは否定できません。一般に一括管理と呼ばれるもので、あらゆるエンドポイントのステータスを知り、上司に向けてレポートを生成し、360度在庫を見渡したいと考えているでしょう。UEMプロバイダーが、これを1つの共通ツールを投げかける中心となる理由とする中、最新プラットフォーム機能への最新サポートが不足していることは、あなたの世界に1つの窓から得られるものの価値に影を投げかけます。

代わりに、一括管理に実績のある専用のビジネスインテリジェンス/レポートングツールを使用しましょう。デバイス管理ツール自体からレポートングするのではなく、ダッシュボードデータを表示する設計になっているBIまたはITサービス管理ツール(例えば、Domo、Splunk、Tableau、ServiceNow)にデータを集積しましょう。それぞれのエコシステム管理ツールに、一番得意とするよう設計されていること、つまりデバイス管理をまかせてみましょう。次に、すべてのデバイスデータはレポートング/BIツールへと送信できます。

エコシステムごとのデバイス管理

オプション 3	Apple	Microsoft	Google
デスクトップ	macOS	Windows	Chrome OS
モバイル	iOS	Windows Mobile	Android
TV	tvOS	—	Chrome OS
管理ツール	MDM (Jamf)	Intune/SCCM	G Suite管理
レポートングツール	BIツール: ServiceNow、Splunk、Tableauなど。		

「AND」のパワー

エコシステムで管理するなら、既存ITインフラストラクチャーにシームレスにあてはまる管理ソリューションを検討することが重要になります。アイデンティティアクセス管理、ディレクトリサービス、ネットワークアクセスなどのサービスはすでにお使いの環境に存在するかもしれませんが、プラットフォームにとらわれないものとなりつつあり、管理するエコシステム全体に拡大すべきものです。アイデンティティ管理、ネットワークアクセスコントロール、ディレクトリサービスはApple、Microsoft、Googleデバイスで簡単に使用できますが、多くのデバイス管理ソリューションに直接組み込まれているわけではありません。

総合ツールにすべてをやってもらうことを期待するのではなく、専用サービスプロバイダーを使用してそれらが一番得意とすること、つまりアイデンティティ管理、ディレクトリサービス、ネットワークアクセスに対応してもらいましょう。既存ITサービスに接続できる統合しやすいエコシステムデバイス管理ツールは、長期的に見て組織にとってより良いオプションとなるでしょう。幅広いIT戦略に合わせながらプラットフォームの優れた機能を活用できるためです。

エコシステムごとのデバイス管理

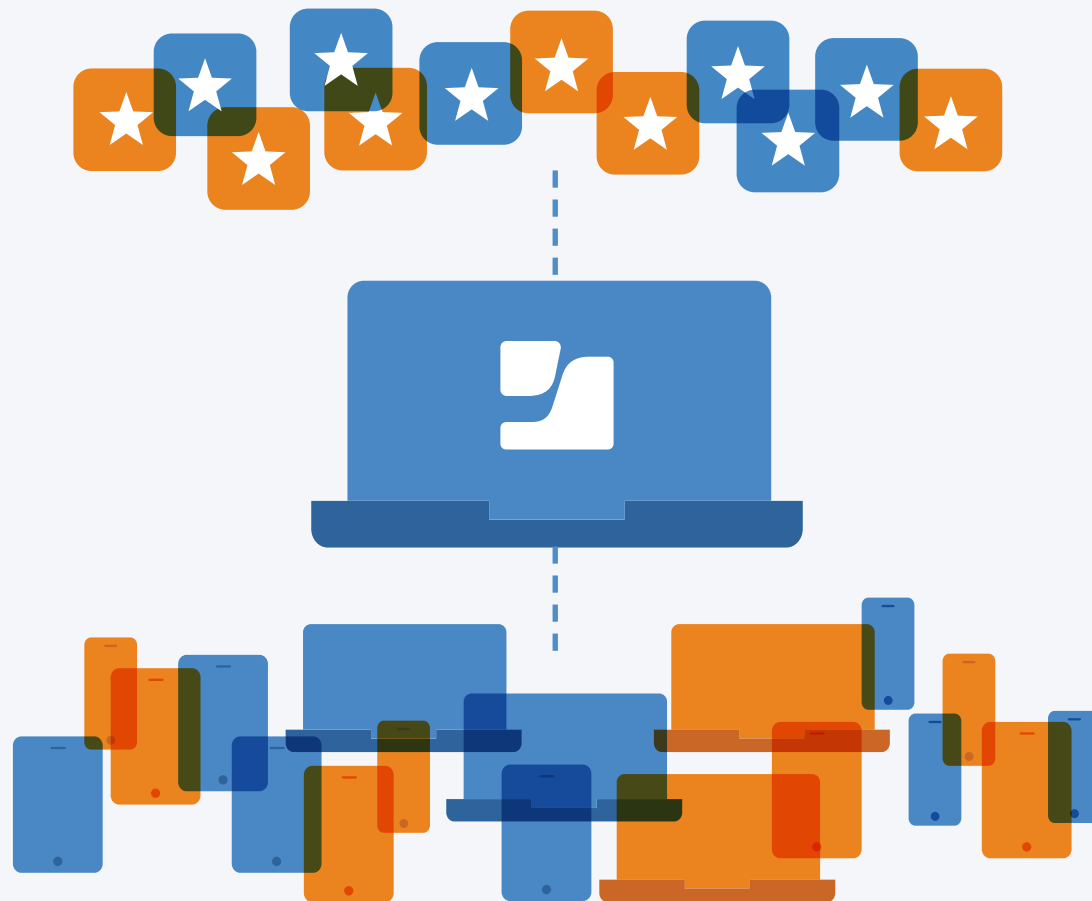


デバイスの種類	Apple	Microsoft	Google
コンピューター	macOS	Windows	Chrome OS
モバイル	iOS	Windows Mobile	Android
TV	tvOS	—	Chrome OS
管理ツール	MDM (Jamf)	Intune/SCCM	G Suite管理
レポートツール	BIツール: ServiceNow、Splunk、Tableauなど。		
アイデンティティ管理	Okta、Ping、One Loginなど		
ディレクトリサービス	Active Directory、Open Directory、JumpCloudなど		
ネットワークアクセス	Cisco、Aruba、Wanderaなど		

Jamfによる統合

Jamfのプラットフォームでは、ServiceNow、RobotCloud、Tableau、Splunkなどのサードパーティツール、SCCMですら統合をはかり、Appleインベントリデータを共有できます。すべてのデバイスについてレポートを改善し、お使いのAppleデバイスをよりよく管理します。

Jamfは、拡張し接続するソリューションを構築します。さまざまな業界の統合から特定のソリューションまで、Jamfは200以上のプロバイダーを統合し、お客様に求められている開発を実現するようにしています。



4

結論

AppleエコシステムにApple管理標準を使用する

Appleデバイスのパワーは否定しがたいものです。コンピューターとモバイルチームがさらに集まってMac、iPad、iPhone、Apple TVデバイスをひとつの管理ソリューションで管理しようとするほど、さらに管理体験が改善され、ユーザーにエンパワーメントがもたらされます。

Appleプラットフォームに向けた正しいソリューションにより、DEP、VPPを実施し、MDMプロファイルを活用してすべてのユーザーへのデバイス体験をカスタマイズするためのワークフローが合理化し、サポートがゼロデイとなります。

JamfはAppleを信頼する人たちに信頼されるツールです。Appleデバイス管理の標準としてJamfは費用構造をシンプルにし、あらゆるAppleデバイス管理のニーズについて契約を1つにし、アップグレードスケジュールをまとめ、Appleエキスパートへの問い合わせ先を統合することで、あなたと組織が簡単に利用できるようにしています。



業界トップの管理能力は始まったばかりです。Jamfは全体的な製品体験をもたらします。つまり、サービスは顧客になったら止むものではありません。何かあれば、よくなるだけです。Jamfエキスパートを指名してあなたに専属させる世界クラスのサポートモデルから、ツールについて知りたいすべてを伝える教育コース、Apple管理にすぐに報告するJamf Nationコミュニティの47000人以上のメンバーまで、これ以上のApple管理プロバイダーはありません。そのために評判を得ています



業界最高のApple管理ソリューションの無料試用をぜひお試しください。

トライアルを開始する